



水邊の散歩道路について

野村 兼 太郎

道路が普通問題とされるのは、多く大道路、又は都市内の道路についてである。その交通量や交通の便不便が多くの人々に直接問題とされる部分について、多く論及され、小さな道路については全く閑却され、事實自然に放置されてゐると云つてよいからゐである。しかし人間の生活にとつて、それ等の小さな枝道も大道路と同様に、時にはそれ以上に重要な影響を有ち得るものである。こゝではさうした種類の道路の一つを取上げて問題として見ようと思ふのである。

わが國には大小幾多の河川がある。大抵さう云ふ流れに添ふて小道路がある。流れに添ふて散策することは、多くの人々にとつて、云ひ難い慰めである。一日の勞を慰めるのに、又鬱屈せる心持を晴々させるために、水の流れを眺めつゝ、川風に吹かれながら、逍遙することは確かに大なる慰めである。大河の流れに添ふては時に堤上等に立派な道路を建設してあるところも少なくない。しかし

その場合にも、自動車等の疾驅することを許し、さうした道路の本質にそぐはぬ様な場合も少なくない。勿論大河の場合には、自動車道路も悪くはない。しかしその場合には、少しも自動車等の塵埃を浴びることのないやうな側道をつけて欲しい。しかし今こゝに問題とするのは、さうした大河に添ふた道路でなく、都市の郊外や地方に多く見られる小さな流れに添ふた道路である。

この種の道路は決して實務的なものではない。現代のスピード時代から見れば、全く問題とならぬものである。そこには自轉車さへも走らせて欲しくない。人々が今日のやうに神經を過勞させる生活に終始してゐる時、沙漠のオアシスのやうに、一脈の生氣を興へさせるのが、かうした道路の本質である。従つてその幅員も主要なもので六尺、枝路では三尺ぐらゐで足りるであらう。しかしその側には灌木の叢、立木、又は草花類を適當に配置させる必要があらう。勿論それ等が自然に存するところでは、十分それ等を利用すべきである。要するにかうした道路は人生の休憩所であるから、そのつもりで作らねばならない。

かうした道路にも自ら二種ある。一つは大都會の郊外他の一つは地方の溪流の利用である。交通機關の發達は多くの都會人を郊外に住居させる。空氣の新鮮、周圍の靜寂等々に引かれて郊外に移る。しかしさうした無計畫な移住がやがてその地方を半都會化し、騒しい不愉快な住宅區域を出現する。これ等の住宅區域に對しては、始めからその本來の目的に叶ふやうに設計されなければならぬ。殊に、もしそれ等の地域に自然的な小流があるならば、これをどぶ溝に化さぬやう、始めから

用心せねばならぬ。下水汚水を遠慮なく流出させれば、それ等は何時か蚊や蚯蚓の巢窟たらざるを得ない。かうした地域にこそ特に小溪流に添ふ散歩道路が絶対に必要なのであるから特に都市計畫に際し、十分の考慮を拂ふ必要があるのである。地方都市などで全然これ等を顧慮せず、都市の人口の發展と共に、區域の擴大することを大いに祝てゐながら、財源のないことを口實として道路をその地方の個人に委せて顧みないものが多いのは、誠に寒心に耐えない。

次に地方の溪流であるが、各地を歩くと到るところに清冽な流れを發見する。時に心なき道路建設者に依つて、それ等の流れに添ふ美觀が根本から破壊されてゐることがある。優れた名勝の地や有名な地域には、それぞれ保存法が講ぜられてゐる。——それさへ時には無理解な開拓がなされることは多いが、——しかしかうした無名の小溪流に對しては、何等の手段をも講ぜられてゐない。もし日本の各地にあるそれ等の無名の小溪流が適度に保存され、それに添ふ小路が作られたなら、日本の美觀を増大すること、決して少なしとしないであらう。

しかしこれ等の道路は決して公園内の散歩道ではない。何處までも自然に存する流れを中心とするものである。道路もそれに添ふて最も自然に作られなければならない。流れに添ふて平行に作ればよい。特に迂餘曲折する必要はない。又庭園ではないのだから、特に美觀を作出す必要はない。ありのままに、自然に、しかも平凡に作るべきである。人工人爲は出来る限り避くべきである。徒らに技巧を凝らしたものは飽き易い。これ等の途は米の飯のやうなもので、御馳走ではない。

水の流れと綠蔭とに依つて、滋味な慰めを、人々に與へんがために作るものである。

かうした道路を作るに際し、屢々農村などでは灌漑と關聯して問題となることであらう。殊にわが國の如き水田耕作に於いては、その關係が愈々密接であらう。新開の郊外地などでは、水田を埋立てると共に、さうした小流をも廢滅させることが少なくあるまい。水田のあつた時には、關門に依つて水流を引込んでゐた地方では、住宅地となるにつれ、これを廢止するのは當然である。しかしその場合でもその地域の一部分に舊來の水流を利用して、一水郷を作るやうにして欲しい。他方又特に溪流美を保存するために灌漑が不便となるやうなことがあつてはならない。しかし多くの場合、さうした實用と自然とは一致して一つの美觀を作り易いものである。

又ある場合には、小川の美觀をその附近の子供達が損ふ場合もないとは云へない。しかしそれはむしろ溪流の作成如何にあると思ふ。例へばその一部に、それ等の子供達のために、一定の場所を十分な遊び場としてもよい。それ以上の故意の破壊的行動についてはさうした惡童を然るべく教導するより外はない。

以上述べたやうな水邊の散歩道路が人生に如何なる寄與をなすか。勿論明白な數字となつて、その利益が現れて來るわけではない。従つて多くの人々はこれを閑却し勝ちである。しかしさうした具體的な經濟的利益以上の目に見えぬ利益が無限に與へられる。少年時代の記憶が故郷の小川の嘯きであるが如く、青年、壯年、老年を通じて、多くの慰めを、一小流から得られることであらう。

しかもその費用は大したものではない。勿論各地域地域の状況に依つて、一概に論ずることは出来ない。英國の都市計畫に於いて水邊の散歩道路作成費について、S. L. G. Beaufoy氏は次の數項目を擧げてゐる。

- (一) 土地獲得費
- (二) 暗渠排水費(必要な場合には)
- (三) 垣及び柵等の柱及び針金
- (四) 道路舗裝及び芝生
- (五) 流床下降費
- (六) 堤建造費
- (七) 枝路作成費
- (八) 樹木費
- (九) 叢林費
- (一〇) 獨立の花樹その他
- (一一) 水邊植物の供給及び移植

以上の諸項目を見ても解るやうに、殆ど新しく作成する場合であるが、その費用は一ヤード平方に

二シリングを計上してゐる。私が今こゝに述べてゐるのは、むしろ從來存する水流をそのまま利用せんとするのであるから、かうした費用は殆ど必要がない。唯水流の利用すべきものが、不便利な場所にあつたり、水流の景觀があまり面白くない場合には、こゝに擧げた項目中のあるものが、必要になるだけである。殊にわが國のやうな水流の多いところでは、比較的少ない費用で多くの効果を擧げることが出来る。

かうした水邊の散歩道路は前述の如く自然のまゝがよい。殊に日本風景美に相應しいやうに作ることが肝用である。それは實用的でないのであるから、整然たる近代的道路を作る必要は毫もない。日本特有の風景美をそのままに表現すればよい。近頃到るところの道路が鋪裝され、橋梁は歐米風に作られるやうになつた。自動車トラックの通過にはそれも必要である。しかし道路改良は歐米化するだけが能ではない。日本固有の道路美を作り上げることもその任務であらう。従つてこゝに水邊の散歩道路と云つたからとて、必ずしも洋風の芝生道を作るのではない。道路の側に鐵柵を設ける必要はない。我々の祖先の目を慰めたやうな小水流と、青々した樹木とその陰、それに添ふて疾驅する乗物に精神を驚かし痛めることのないやうな小徑を作れば足りるのである。

(昭和九年七月十五日稿)